

平成 29 年度の山部会の活動計画

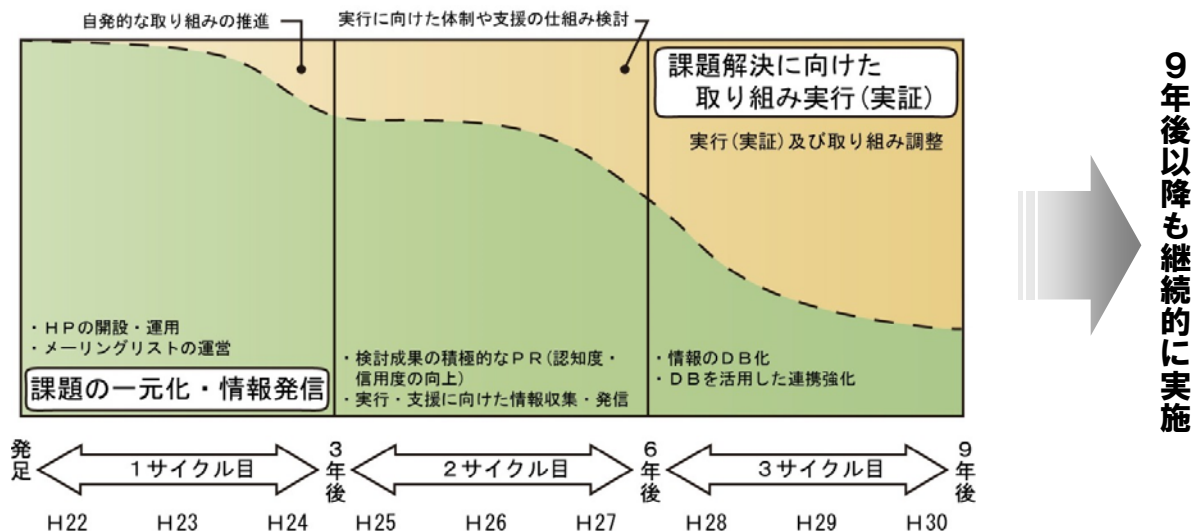
1. 懇談会の活動経緯と運営方針について

1.1 懇談会の目的

- 矢作川流域圏に関係する各組織のネットワーク化を図る
- 流域圏一体化の取り組み及び矢作川の河川整備に関わる情報共有・意見交換を図る

1.2 懇談会の運営方針

- 懇談会は、3年に1サイクルで総括を行いながら運営
- 今年度からは、3サイクル目の「課題解決に向けた取り組み実行（実証）」へシフト



2. 部会の3ヶ年の目標（平成28年度～平成30年度）

活動にあたっては、「矢作川水系河川整備計画」に基づき、調和のとれた矢作川流域圏の実現に向け、学識者、関係団体、関係行政機関がそれぞれの役割について認識を持ち、互いに連携して諸課題の解決に取り組むことにした。

昨年度までの活動に対する課題や意見から、今年度以降の3ヶ年の目標（第5回全体会議承認事項）を以下に示す。

- WGの中で山村再生担い手づくり事例集について、よりPR力のあるものにする
- 山村ミーティングや木づかいガイドライン等とWGの中で山村再生担い手づくり事例集によって築かれた人間関係を連携させて、流域が関わるイベントを実施する
- WGの中で森づくりガイドラインについて、矢作川や水源かん養機能に配慮した森づくりの理念と具体的な方策を発信する
- WGの中で木づかいガイドラインの策定を行い、流域における水平展開を山部会構成メンバーで実行する

3. テーマ別の来年度の活動計画

来年度も、地域持ち回りのWGにおいて、以下の4つのテーマの情報共有と意見交換を行う。WGの開催は月1回の実施を目標とし、必要に応じて勉強会を開催する。

3.1 山村再生担い手づくり事例集

- 事例集の取材者、取材先、流域圏懇談会、読者のネットワークをいっそう広げ、深めることを目指した事例集交流会を4月に実施する。
- 事例集Ⅱを対象にした「その後いかがお過ごしですか？プロジェクト」を実施する。
- 山村ミーティングや木づかいガイドライン等、他のテーマとの連携を深める。

3.2 山村ミーティング

- 森林組合作業班を中心とした100人ヒアリングを進める。
- 矢作川感謝祭(仮称)を流域全体のまつりと位置づけ、実施できるよう実行委員のメンバーとして企画していく。
- 山村再生担い手づくり事例集や木づかいガイドライン等、他のテーマとの連携を深める。

3.3 森づくりガイドライン

- 岡崎市、豊田市における森づくりの動きについて、WGとして把握し、情報共有と意見交換を行う。
- 岡崎市と豊田市で、共通理解となった水源かん養機能や矢作川に配慮した森づくりの理念と具体的な方策をとりまとめる。
- 水循環の基本法に基づく健全な水循環の維持・回復を目標として、水の貯留・かん養機能の維持向上や山を治めつつ適度な土砂流下を図るため、矢作川流域の独自性を加味した森づくりのガイドライン作成に取り組む。

3.4 木づかいガイドライン

- 矢作川流域ものさしと私の流域物語を使って、ひとり一人が流域の魅力を発信する。
- 山部会どこでもシリーズを使った旬の時期の旬のお祭りを開催する。
- 流域の魅力を創造する市民創造、労働参加型プロジェクトに取り組む。
- 市民労働参加型プレイスメイキングプロジェクトを考える。

4. 流域連携テーマの活動計画

流域連携テーマについては、昨年度の第5回全体会議以降「ごみ・流木」、「土砂」、「木づかい」に関する活動を山・川・海の各WGにおいて実施している。今後の活動計画については、市民会議を早急で開催し、流域間交流イベントの開催等の取組みを含めて意見交換を行う。